

大谷ケイタリン

7月の後半、クロイと私は、仏教婦人会交換学生というすばらしいプログラムに参加させていただきました。このプログラムの参加者に選ばれるのは、大変な名誉です。こうして私たちは12日間、日本に滞在し、浄土真宗についてたくさんのことを学び、多くの法友らと出会う機会をいただきました。

7月17日は、青少年国際研修団の参加者と行動をともにし、勉強会、ご門主様とのご面接、本願寺ツアーなどに参加しました。その日の締めくくりは、交流会を兼ねた夕食会で、世界各地からやってきた同世代の念仏者らと知り合う出会うすばらしい機会となりました。この夕食会では、僧侶になるための勉強をしている龍谷大学の学生さんたちとも知り合うことができました。

翌日、クロイと私は大阪を訪れますが、その道中、本願寺の歴史を学びました。そのときまで私は、本願寺が大阪にあったことを知りませんでした。けれども、それを知らなかったのは私だけではなかったようです。大阪の人たちに本願寺の歴史を知ってもらうために、津村別院に「北御堂ミュージアム」という博物館がオープンしたということでしたから。大阪を訪れる前日、私たちは本山のお夕事にお参りしました。そのとき、お坊さんたちは通常20分はかかるおつとめを5分で唱えていました。津村別院におまいりしたとき、お坊さんたちが昨日なぜそれほど急いでおつとめをしていたかを知りました。いつ大名の手勢が本願寺を襲ってくるかわからなかった時代のなごりで、お坊さんたちはあれほど急いでおつとめをしていたのです。

7月19日、私たちは広島別院を訪れました。幸運にも、私は過去に2度、広島を訪れたことがあります。そのときは、平和公園を散歩し、資料館を訪れただけでしたが、今回は広島に暮らす方々にお目にかかる機会を得ました。そのうちのお一人は、1945年の原爆投下時に広島に住んでおられたそうで、世界の核兵器撲滅のために人生を捧げておられました。翌朝、私たちは広島にある光源寺というお寺を訪れ、生け花とお茶の手習いを受けました。そのとき、お寺のご門徒さんたちとも交流して仲良くなりました。

広島滞在の後、クロイと私はホームステイを体験しました。プログラム中、特に楽しかった体験です。ホストファミリーは島根県大田市にある常見寺のご家族です。私たちはこの大草ご一家に5日間、お世話になったわけですが、皆が心から私たちを歓迎してくれているのが感じられました。ホームステイ最初の日、お寺が毎年実施しているサマースクールという行事に参加し、お手伝いをしながらお寺の方々と仲良くなりました。2日目からは、島根県のいろいろな場所に連れて行ってもらいました。松江ヴォーゲルパーク、松江城、世界遺産にも登録されている石見银山などです。

ホームステイ中、ご門徒さんのバーベキューに招待され、まだお目にかかる機会のなかったご門徒さんたちとも知り合うことができました。仏教婦人会々員の皆さんからはお手玉の作り方を教わったり、メンバーのお一人のお宅でお茶席を体験させてもらったりしました。

島根でのホームステイを終え、最後の1日を京都ですごしました。その日はお裏方様とのご面接がありました。直接、お目にかかることが許されるのはとても光栄なことです。ご面接の前、本山の職員の方とお話ししましたが、その人もお裏方様と直接お話しした経験は1度しかない、とおっしゃっていました。お裏方様は本当に優美でやさしくておきれいでした。

ご面接の後、仏教婦人会の役員の皆さんと一緒に奈良を訪れました。すごく楽しかったです。それまで奈良には行ったことがなかったので、何もかも驚くような体験でした。東大寺では息を呑むほど大きな大仏様をおがみ、町ではそこら中を歩き回る鹿に目を丸くしました。

日本での経験を通して、驚くようなことをたくさん学び、浄土真宗をいただく念仏者としての自覚を

深めることができました。日本やそこで知り合った大勢の人たちとお別れするのがつらかったです。その人たちとはこれからも連絡を取り合うつもりです。この交換留学生プログラムを通して、生き方が変わるほどの経験をさせてくださった仏教婦人会に心から感謝しています。私の一生の思い出であり、それらの思い出とともに、私はこれからも仏教婦人として歩んでいきます。